

2. 医薬品の薬効分類別生産状況

(1) 循環器官用薬

循環器官用薬の生産金額は1兆2,343億円であり、医薬品総生産金額の19.0%を占め、前年に比較して94億円(0.8%)の減少となっている。

内訳は第5表のとおりである。このうち最も生産金額が大きいものは、血圧降下剤で32.8%を占めており、血管拡張剤25.6%、高脂血症用剤21.8%、その他の循環器官用薬8.5%という順になっている。

第5表 循環器官用薬の生産金額

薬 効 中 分 類	生 産 金 額		対 前 年 増 減		構 成 割 合	
	14 年	13 年	増 減 額	比	14 年	13 年
	百万円	百万円	百万円	%	%	%
総 数	1,234,320	1,243,763	-9,443	-0.8	100.0	100.0
強 心 剤	27,452	40,056	-12,604	-31.5	2.2	3.2
不 整 脈 用 剤	78,299	90,815	-12,517	-13.8	6.3	7.3
利 尿 剤	24,885	23,264	1,621	7.0	2.0	1.9
血 圧 降 下 剤	405,433	359,202	46,231	12.9	32.8	28.9
血 管 補 強 剤	98	103	-5	-4.4	-	-
血 管 収 縮 剤	7,670	7,035	635	9.0	0.6	0.6
血 管 拡 張 剤	315,521	317,594	-2,072	-0.7	25.6	25.5
高 脂 血 症 用 剤	269,531	287,861	-18,330	-6.4	21.8	23.1
その他の循環器官用薬	105,431	117,833	-12,402	-10.5	8.5	9.5

(2) 中枢神経系用薬

中枢神経系用薬の生産金額は5,921億円で医薬品総生産金額の9.1%を占め、前年と比較して407億円(7.4%)の増加となっている。

内訳は第6表のとおりである。このうち最も生産金額が大きいものは、解熱鎮痛消炎剤で25.7%を占めており、精神神経用剤17.6%、総合感冒剤16.6%、催眠鎮静剤、抗不安剤12.8%という順になっている。

第6表 中枢神経系用薬の生産金額

薬 効 中 分 類	生 産 金 額		対 前 年 増 減		構 成 割 合	
	14 年	13 年	増 減 額	比	14 年	13 年
	百万円	百万円	百万円	%	%	%
総 数	592,072	551,394	40,677	7.4	100.0	100.0
全身麻酔剤	16,160	12,525	3,635	29.0	2.7	2.3
催眠鎮静剤, 抗不安剤	75,982	74,343	1,639	2.2	12.8	13.5
抗てんかん剤	23,684	24,576	-892	-3.6	4.0	4.5
解熱鎮痛消炎剤	152,111	161,180	-9,069	-5.6	25.7	29.2
興奮剤, 覚せい剤	1,325	1,287	38	2.9	0.2	0.2
抗パーキンソン剤	34,674	35,524	-850	-2.4	5.9	6.4
精神神経用剤	104,350	98,912	5,437	5.5	17.6	17.9
総合感冒剤	98,533	92,890	5,643	6.1	16.6	16.8
その他の中枢神経系用薬	85,253	50,157	35,096	70.0	14.4	9.1

(3) その他の代謝性医薬品

その他の代謝性医薬品の生産金額は5,893億円で医薬品総生産金額の9.1%を占め、前年に比較して317億円(5.7%)の増加となっている。

内訳は第7表のとおりである。このうち最も生産金額が大きいものは、他に分類されない代謝性医薬品で57.5%を占めており、糖尿病用剤18.2%、総合代謝性製剤11.2%、痛風治療剤4.4%という順になっている。

第7表 その他の代謝性医薬品の生産金額

薬効中分類	生産金額		対前年増減		構成割合	
	14年	13年	増減額	比	14年	13年
総数	百万円 589,341	百万円 557,644	百万円 31,697	% 5.7	% 100.0	% 100.0
肝臓疾患用剤	14,483	15,467	-984	-6.4	2.5	2.8
解毒剤	11,256	9,970	1,286	12.9	1.9	1.8
習慣性中毒用剤	125	101	24	23.7	-	-
痛風治療剤	25,760	23,916	1,844	7.7	4.4	4.3
酵素製剤	25,328	26,768	-1,441	-5.4	4.3	4.8
糖尿病用剤	107,336	94,263	13,073	13.9	18.2	16.9
総合代謝性製剤	65,931	70,166	-4,235	-6.0	11.2	12.6
他に分類されない代謝性医薬品	339,123	316,992	22,131	7.0	57.5	56.8

(4) 消化器官用薬

消化器官用薬の生産金額は5,558億円で医薬品総生産金額の8.6%を占め、前年に比較して500億円(0.9%)の減少となっている。

内訳は第8表のとおりである。このうち最も生産金額の大きいものは、消化性潰瘍用剤で60.8%を占めており、その他の消化器官用薬12.1%、下剤、浣腸剤6.7%、複合胃腸剤5.8%という順になっている。

第8表 消化器官用薬の生産金額

薬効中分類	生産金額		対前年増減		構成割合	
	14年	13年	増減額	比	14年	13年
総数	百万円 555,792	百万円 560,796	百万円 -5,004	% -0.9	% 100.0	% 100.0
止しゃ剤, 整腸剤	27,681	27,331	350	1.3	5.0	4.9
消化性潰瘍用剤	337,995	339,546	-1,551	-0.5	60.8	60.5
健胃消化剤	19,771	20,957	-1,186	-5.7	3.6	3.7
制酸剤	17,651	16,831	820	4.9	3.2	3.0
下剤, 浣腸剤	37,023	38,819	-1,796	-4.6	6.7	6.9
利胆剤	16,371	18,700	-2,329	-12.5	2.9	3.3
複合胃腸剤	32,243	35,471	-3,229	-9.1	5.8	6.3
その他の消化器官用薬	67,057	63,141	3,916	6.2	12.1	11.3

(5) 抗生物質製剤

抗生物質製剤の生産金額は3,698億円で医薬品総生産金額の5.7%を占め、前年に比較して407億円(9.9%)の減少となっている。

内訳は第9表のとおりである。このうち最も生産金額が大きいものは、主としてグラム陽性・陰性菌に作用する抗生物質製剤で77.1%を占めている。主としてグラム陽性菌・マイコプラズマに作用する抗生物質製剤が15.3%を占めており、これら上位2分類で92.4%を占めている。

第9表 抗生物質製剤の生産金額

薬効中分類	生産金額		対前年増減		構成割合	
	14年	13年	増減額	比	14年	13年
	百万円	百万円	百万円	%	%	%
総数	369,764	410,413	-40,650	-9.9	100.0	100.0
主としてグラム陽性菌に作用する抗生物質製剤	9,527	10,065	-538	-5.3	2.6	2.5
主としてグラム陰性菌に作用する抗生物質製剤	7,620	8,827	-1,207	-13.7	2.1	2.2
主としてグラム陽性・陰性菌に作用する抗生物質製剤	285,186	330,033	-44,847	-13.6	77.1	80.4
主としてグラム陽性菌、マイコプラズマに作用する抗生物質製剤	56,644	54,202	2,442	4.5	15.3	13.2
主としてグラム陽性・陰性菌、リケッチア、クラミジアに作用する抗生物質製剤	4,015	4,357	-342	-7.9	1.1	1.1
主として抗酸菌に作用する抗生物質製剤	1,663	1,970	-307	-15.6	0.4	0.5
主としてカビに作用する抗生物質製剤	3,853	834	3,019	362.0	1.0	0.2
その他の抗生物質製剤(複合抗生物質製剤を含む)	1,257	125	1,132	903.1	0.3	-

(6) 外皮用薬

外皮用薬の生産金額は3,608億円で医薬品総生産金額の5.6%を占め、前年に比較して154億円(4.1%)の減少となっている。

内訳は第10表のとおりである。このうち最も生産金額の大きいものは、鎮痛、鎮痒、収斂、消炎剤で60.6%を占めており、外皮用殺菌消毒剤12.7%、寄生性皮膚疾患用剤8.9%、毛髪用剤(発毛剤、脱毛剤、染毛剤、養毛剤)5.8%という順になっている。

第10表 外皮用薬の生産金額

薬効中分類	生産金額		対前年増減		構成割合	
	14年	13年	増減額	比	14年	13年
総数	百万円 360,797	百万円 376,230	百万円 -15,433	% -4.1	% 100.0	% 100.0
外皮用殺菌消毒剤	45,815	54,576	-8,761	-16.1	12.7	14.5
創傷保護剤	5,481	5,637	-156	-2.8	1.5	1.5
化膿性疾患用剤	10,319	10,363	-44	-0.4	2.9	2.8
鎮痛、鎮痒、収斂、消炎剤	218,773	227,344	-8,570	-3.8	60.6	60.4
寄生性皮膚疾患用剤	32,005	34,249	-2,245	-6.6	8.9	9.1
皮ふ軟化剤（腐しよく剤を含む。）	12,339	12,565	-226	-1.8	3.4	3.3
毛髪用剤（発毛剤、脱毛剤、染毛剤、養毛剤）	20,850	21,088	-239	-1.1	5.8	5.6
浴剤	279	276	3	1.2	0.1	0.1
その他の外皮用薬	14,935	10,131	4,804	47.4	4.1	2.7

(7) 血液・体液用薬

血液・体液用薬の生産金額は2,957億円で医薬品総生産金額の4.6%を占め、前年に比較して56億円（1.9%）の減少となっている。

内訳は第11表のとおりである。このうち最も生産金額が大きいものは、その他の血液・体液用薬で64.3%を占めており、血液代用剤23.2%、血液凝固阻止剤8.5%、止血剤4.0%の順になっている。

第11表 血液・体液用薬の生産金額

薬効中分類	生産金額		対前年増減		構成割合	
	14年	13年	増減額	比	14年	13年
総数	百万円 295,740	百万円 301,339	百万円 -5,598	% -1.9	% 100.0	% 100.0
血液代用剤	68,517	70,860	-2,342	-3.3	23.2	23.5
止血剤	11,827	12,566	-740	-5.9	4.0	4.2
血液凝固阻止剤	25,114	21,018	4,096	19.5	8.5	7.0
その他の血液・体液用薬	190,282	196,894	-6,612	-3.4	64.3	65.3

(8) 生物学的製剤

生物学的製剤の生産金額は2,547億円で医薬品総生産金額の3.9%を占め、前年に比較して7億円(0.3%)の減少となっている。

内訳は第12表のとおりである。このうち最も生産金額が大きいものは、血液製剤類で69.1%を占めており、その他の生物学的製剤17.1%、ワクチン類12.4%という順になっている。

第12表 生物学的製剤

薬効中分類	生産金額		対前年増減		構成割合	
	14年	13年	増減額	比	14年	13年
総数	百万円 254,679	百万円 255,401	百万円 -722	% -0.3	% 100.0	% 100.0
ワクチン類	31,496	28,600	2,895	10.1	12.4	11.2
毒素及びトキソイド類	441	433	8	1.9	0.2	0.2
抗毒素類及び抗レプトスピラ血清類	78	62	15	24.9	-	-
血液製剤類	176,035	175,972	64	-	69.1	68.9
生物学的試験用製剤類	-	-	-	-	-	-
混合生物学的製剤	3,019	1,026	1,993	194.2	1.2	0.4
その他の生物学的製剤	43,611	49,308	-5,697	-11.6	17.1	19.3

(9) ビタミン剤

ビタミン剤の生産金額は2,298億円で医薬品総生産金額の3.5%を占め、前年に比較して136億円(5.6%)の減少となっている。

内訳は第13表のとおりである。このうち最も生産金額が大きいものは、混合ビタミン剤(ビタミンA・D混合製剤を除く。)で27.0%を占めており、ビタミンB剤(ビタミンB₁剤を除く。)25.5%、ビタミンA及びD剤24.5%という順になっている。

第13表 ビタミン剤の生産金額

薬効中分類	生産金額		対前年増減		構成割合	
	14年	13年	増減額	比	14年	13年
総数	百万円 229,776	百万円 243,395	百万円 -13,620	% -5.6	% 100.0	% 100.0
ビタミンA及びD剤	56,409	60,749	-4,340	-7.1	24.5	25.0
ビタミンB ₁ 剤	12,907	14,760	-1,853	-12.6	5.6	6.1
ビタミンB剤(ビタミンB ₁ 剤を除く。)	58,498	58,186	312	0.5	25.5	23.9
ビタミンC剤	5,841	6,595	-754	-11.4	2.5	2.7
ビタミンE剤	9,054	9,967	-913	-9.2	3.9	4.1
ビタミンK剤	12,450	16,104	-3,654	-22.7	5.4	6.6
混合ビタミン剤(ビタミンA・D混合製剤を除く。)	61,954	65,390	-3,436	-5.3	27.0	26.9
その他のビタミン剤	12,662	11,645	1,018	8.7	5.5	4.8

(10) アレルギー用薬

アレルギー用薬の生産金額は2,203億円で医薬品総生産金額の3.4%を占め、前年に比較して300億円(12.0%)の減少となっている。

内訳は第14表のとおりである。このうち最も生産金額が大きいものは、その他のアレルギー用薬で91.5%を占めており、抗ヒスタミン剤4.6%、刺激療法剤3.9%という順になっている。

第14表 アレルギー用薬の生産金額

薬効中分類	生産金額		対前年増減		構成割合	
	14年	13年	増減額	比	14年	13年
総数	百万円 220,340	百万円 250,342	百万円 -30,002	% -12.0	% 100.0	% 100.0
抗ヒスタミン剤	10,223	12,269	-2,046	-16.7	4.6	4.9
刺激療法剤	8,615	8,960	-346	-3.9	3.9	3.6
非特異性免疫原製剤	-	-	-	-	-	-
その他のアレルギー用薬	201,503	229,113	-27,610	-12.1	91.5	91.5

(11) 感覚器官用薬

感覚器官用薬の生産金額は2,141億円で医薬品総生産金額の3.3%を占め、前年に比較して204億円(8.7%)の減少となっている。

内訳は第15表のとおりある。このうち最も生産金額が大きいものは、眼科用剤で79.5%を占めており、耳鼻科用剤15.5%、鎮痛剤5.0%という順になっている。

第15表 感覚器官用薬の生産金額

薬効中分類	生産金額		対前年増減		構成割合	
	14年	13年	増減額	比	14年	13年
総数	百万円 214,123	百万円 234,510	百万円 -20,387	% -8.7	% 100.0	% 100.0
眼科用剤	170,233	185,754	-15,521	-8.4	79.5	79.2
耳鼻科用剤	33,184	37,254	-4,070	-10.9	15.5	15.9
鎮痛剤	10,622	11,410	-788	-6.9	5.0	4.9
その他の感覚器官用薬	83	92	-9	-9.2	-	-

(12) 化学療法剤

化学療法剤の生産金額は1,866億円で医薬品総生産金額の2.9%を占めており、前年に比較して192億円（11.5%）の増加となっている。

内訳は第16表のとおりである。このうち最も生産金額が大きいものは、合成抗菌剤で40.0%を占めており、その他の化学療法剤38.7%、抗ウイルス剤20.5%という順になっている。

第16表 化学療法剤の生産金額

薬効中分類	生産金額		対前年増減		構成割合	
	14年	13年	増減額	比	14年	13年
	百万円	百万円	百万円	%	%	%
総数	186,637	167,401	19,236	11.5	100.0	100.0
サルファ剤	117	146	-29	-19.8	0.1	0.1
抗結核剤	1,319	1,294	25	1.9	0.7	0.8
抗ハンセン病剤	8	11	-3	-27.1	-	-
合成抗菌剤	74,653	77,075	-2,422	-3.1	40.0	46.0
抗ウイルス剤	38,291	18,588	19,702	106.0	20.5	11.1
その他の化学療法剤	72,250	70,287	1,963	2.8	38.7	42.0

(13) 滋養強壯薬

滋養強壯薬の生産金額は1,820億円で医薬品総生産金額の2.8%を占め、前年に比較して23億円（1.2%）の減少となっている。

内訳は第17表のとおりである。このうち最も生産金額が大きいものは、たん白アミノ酸製剤で48.2%を占めており、その他の滋養強壯薬36.9%、無機質製剤6.3%、糖類剤4.4%という順になっている。

第17表 滋養強壯薬の生産金額

薬効中分類	生産金額		対前年増減		構成割合	
	14年	13年	増減額	比	14年	13年
	百万円	百万円	百万円	%	%	%
総数	182,027	184,301	-2,274	-1.2	100.0	100.0
カルシウム剤	5,766	5,730	36	0.6	3.2	3.1
無機質製剤	11,555	11,618	-64	-0.5	6.3	6.3
糖類剤	8,068	8,986	-918	-10.2	4.4	4.9
有機酸製剤	-	-	-	-	-	-
たん白アミノ酸製剤	87,681	86,427	1,254	1.5	48.2	46.9
臓器製剤	1,632	3,082	-1,450	-47.0	0.9	1.7
乳幼児用剤	244	192	52	27.0	0.1	0.1
その他の滋養強壯薬	67,080	68,265	-1,185	-1.7	36.9	37.0

(14) 体外診断用医薬品

体外診断用医薬品の生産金額は1,779億円で医薬品総生産金額の2.7%を占め、前年に比較して85億円（5.0%）の増加となっている。

内訳は第18表のとおりである。このうち最も生産金額が大きいものは、生化学的検査用試薬で49.4%を占めており、免疫血清学的検査用試薬41.1%、一般検査用試薬5.4%という順になっている。

第18表 体外診断用医薬品の生産金額

薬 効 中 分 類	生 産 金 額		対 前 年 増 減		構 成 割 合	
	14年	13年	増減額	比	14年	13年
総 数	百万円 177,933	百万円 169,416	百万円 8,517	% 5.0	% 100.0	% 100.0
一般検査用試薬	9,574	7,949	1,625	20.4	5.4	4.7
血液検査用試薬	4,308	4,484	-177	-3.9	2.4	2.6
生化学的検査用試薬	87,819	86,133	1,686	2.0	49.4	50.8
免疫血清学的検査用試薬	73,139	67,864	5,275	7.8	41.1	40.1
細菌学的検査用薬	3,052	2,920	132	4.5	1.7	1.7
病理組織検査用薬	42	65	-24	-35.9	-	-

(15) 腫瘍用薬

腫瘍用薬の生産金額は1,677億円で医薬品総生産金額の2.6%を占め、前年に比較して146億円（9.5%）の増加となっている。

内訳は第19表のとおりである。このうち最も生産金額が大きいものは、その他の腫瘍用薬で45.9%を占めており、代謝拮抗剤39.2%、抗腫瘍性植物成分製剤9.3%、抗腫瘍性抗生物質製剤4.7%、アルキル化剤0.9%、という順になっている。

第19表 腫瘍用薬の生産金額

薬 効 中 分 類	生 産 金 額		対 前 年 増 減		構 成 割 合	
	14年	13年	増減額	比	14年	13年
総 数	百万円 167,748	百万円 153,155	百万円 14,592	% 9.5	% 100.0	% 100.0
アルキル化剤	1,568	1,140	428	37.6	0.9	0.7
代謝拮抗剤	65,769	72,775	-7,006	-9.6	39.2	47.5
抗腫瘍性抗生物質製剤	7,818	7,618	200	2.6	4.7	5.0
抗腫瘍性植物成分製剤	15,647	15,377	270	1.8	9.3	10.0
その他の腫瘍用薬	76,945	56,245	20,700	36.8	45.9	36.7